

〔文献紹介〕 松本歯学 26: 137~145, 2000

key words: 野口英世 — 伝記 — 第5報

## 松本歯科大学所蔵の野口英世の伝記 (第5報)

矢ヶ崎 康

松本歯科大学 創立者・名誉教授

枝 重夫

松本歯科大学 総合歯科医学研究所 顎・口腔形態機能研究部門

A Collection of the Biographies of Dr. Hideyo Noguchi  
in Matsumoto Dental University (5th report)

YASUSHI YAGASAKI

*The Founder and Honorary Professor of Matsumoto Dental University*

SHIGEO EDA

*Division of Oral and Maxillofacial Biology, Institute for Dental Science, Matsumoto Dental University*

### Summary

In the previous reports (the 1st, 2nd, 3rd and 4th), 235 publications regarding the biography of Dr. Hideyo Noguchi have been described (Matsumoto Shigaku, 13: 1 ~ 34, 1987; 15: 217 ~ 231, 1989; 20: 80 ~ 99, 1994; 23: 194 ~ 210, 1997). In this paper 19 books and journals were added. Among them, two books, "The Hideyo Noguchi Memorial Association (ed): Collection of Hideyo Noguchi's Letters III. Ditto Association, Tokyo, 1998" and "Hamako Kogure *et al.* (ed): Now Again Hideyo Noguchi, Aibun Shorin, Tokyo, 2000", are very important. In total, 254 publications have been introduced to the Matsumoto Shigaku over the past 13 years.

### はじめに

野口英世に関係がある伝記類について、われわれは、第1報 (1987年)<sup>1)</sup>から第4報 (1997年)<sup>4)</sup>で、すでに235種271冊を記載している。その後も蒐集を続けていたところ、今年の10月8日付の朝日新聞に“野口英世の本 (今ふたたび野口英世) を自費出版した小暮葉満子さん”の紹介記事が出

たので、これが第5報を書く契機になった。記載の順序は発行順とし、文献番号と図番号は第4報<sup>4)</sup>の継続とする。また新しく発行された野口英世の切手も紹介したい。

### 野口英世関連の伝記

236) 泥鰌売りの少年から国宝的人物となった野口英世。菊池寛 (編): 少年立志伝 少年少女美



図193：菊池寛（編）：少年立志伝少年少女美談（扉）．文芸春秋社，1928  
ペーパーバックの表紙には文字は全くない。

談．1～16頁．興文社，文芸春秋社，東京．1928

（図193）．本書は少年立志伝と少年少女美談から成っており，野口の伝記は前者の17人中の冒頭にある．子供向けによくまとめて記されているが，最後に“不治の病といはれた肺結核を取りのぞかうとの必死の努力と犠牲の心は……”とあるのは間違いである．なお本書は10月1日発行になっており，野口の5月21日の死去の約4か月後であるから，世界の偉人伝の中に組み込まれたものとして最初であると考えられる．ちなみにわれわれは第3報<sup>3)</sup>において，150) 帆刈芝之助：趣味の偉人伝（1931）を，“野口が世界の偉人伝に組み込まれたものとして最初であると考えられる”とし，第4報<sup>4)</sup>で，“200) 篠遠喜人，向坂道治：大生物学者と生物学（1930）の方がそれより1年あまり早い”と訂正している．本書はさらにそれより早いわけである．さらに単行書としても没後のものとしては，2) 安井作太郎（編）：野口英世，其生涯及業績（第1報で紹介済）<sup>1)</sup>に次ぐものであろう．

237) 佐々木喜一郎：人類の恩人野口英世博

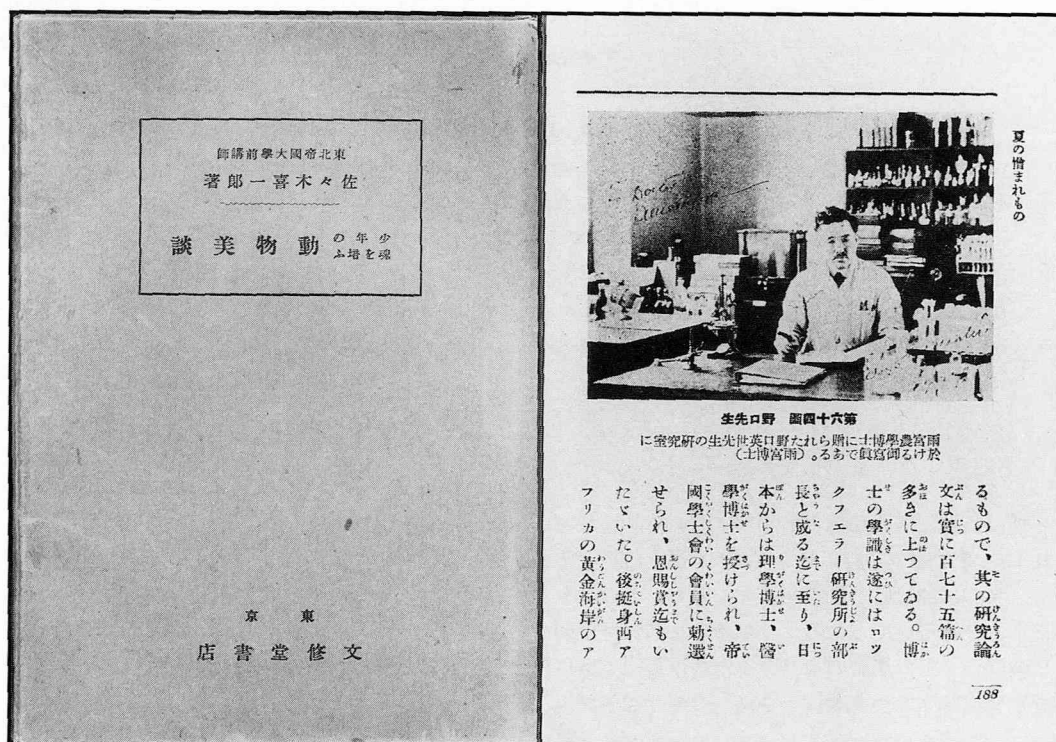


図194：佐々木喜一郎：少年の魂を培ふ動物美談．文修堂書店，1934 左：ケース 右：188頁

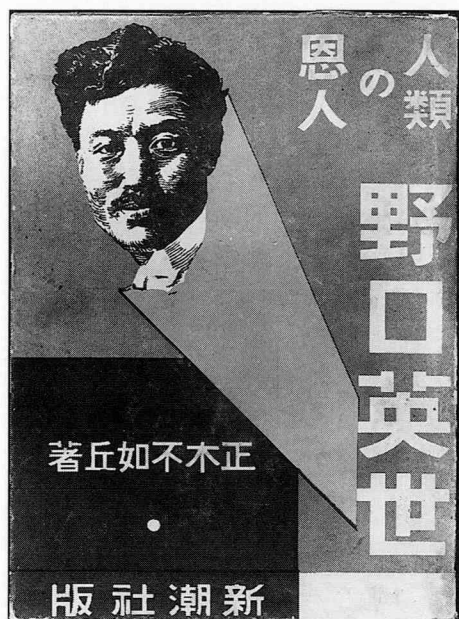


図195：正木不如丘：人類の恩人 野口英世  
(ケース)。(8版)新潮社，1938

士。少年の魂を培う動物美談。186-190。文修堂書店，東京。1934 (図194)。“21 夏の憎まれもの”の蚊の中に記載されている。なお，この写真には“To Doctor Amemiya”と書かれている。

238) 正木不如丘：人類の恩人野口英世。328頁。新潮社，東京。1938 (図195)。第3報<sup>3)</sup>の151) 正木不如丘：人類の恩人野口英世 (初版) の8版で体裁や内容は初版と全く同じであるが，ケース付きで保存状態がよいため紹介する。なお初版の後の方に“新伝記叢書第1期5冊”としてあるので，第2期も出たものと考えていたが，2年後の8版には“第1期”が削除されて同じ5冊の広告が載っているところを見ると，第2期のものは出版されなかったらしい。

239) 偉人伝研究会 (編著)：不具の少年から世界の医学者になった野口英世。世界偉人伝百選。268-272頁。小峰書店，東京。1953。世界の偉人100人を選び，愛に生きた人たち (6名)，正義のためにたたかった人たち (8名)，社会の幸福につくした人たち (12名)，暗黒に光をかけた人たち (9名)，真理を追い求めた人たち (15名)，新しい道をしめした人たち (13名) 生きる喜びをあたえた人たち (10名)，美をつくりだした人たち (11名)，真実のすがたをみつめた人た



図196：エキシュタイン (著)，平野武雄 (訳)：野口英世伝 (カバー)。実業之日本社，1957

ち (16名)に分けている。野口英世は“真理を追い求めた人たち”の中にニュートン，ダーウィン，ファーブル，パスツール，キューリー，杉田玄白，北里柴三郎，湯川秀樹らと共に掲載されている。戦後8年も経ってから出版されているのに紙質が悪い。

240) エキシュタイン (著)，平野武雄 (訳)：野口英世伝。315頁。実業之日本社，東京。1957 (図196)。野口英世伝として奥村本と双璧をなすエキシュタイン本については大人向けの全訳として，第1報<sup>1)</sup>で紹介した6) 栗原古城，小田律 (共訳) 青年書房，1939。7) 内田清之助 (訳) 野口英世博士伝記刊行会，1958。8) 内田清之助 (訳) 東京創元社，1959。などがあるが，子供向けの訳本としては初めてのものである。従ってまえがきに“少年少女諸君にむづかしすぎる理論的な部分や，みなさんのあくびが出そうなところはかなりはぶきました。”とある。「少年少女世界の本」の12である。

241) 有吉忠行 (文)，宮原光 (絵)：野口英世。野口英世・夏目漱石。20-31。いずみ書房，東京。1982 (図197)。“せかい伝記図書館34”で縦15.4 cm，横11.0 cmの小さい本である。なお夏目漱石の方は浜祥子が担当している。



図197：有吉忠行：夏目漱石・野口英世。いずみ書房，1982  
矢印は清作がいろいろに落ちたところ

242) 岡本清纓：歯界遍歴六〇年—岡本清纓自叙伝—。646頁。医歯薬出版，東京，1984。水道橋の3年半（75～117頁）の項に，在米中の星一と野口英世，野口英世と血脇守之助，奥村鶴吉の野口英世評など野口についての興味深い記事がある。



図198：宮脇紀雄：偉人の話 三年生（カバー）。偕成社，1989



図199：祖田浩一：日本奇人・稀人事典（カバーと帯）。東京堂出版，1991



図200：本の話，3巻2号の中扉，1997  
矢印：野口英世

243) 宮脇紀雄：人類の恩人・日本のほこり野口英世。偉人の話 三年生。169～195。偕成社，東京。1989 (図198)。学年別おはなし文庫全60巻の一つで，本書にはエジソン，勝海舟，リンカーン，石川啄木，ナイチンゲール，織田信長，ベートーベン，中江藤樹，レオナルド・ダ・ビンチが載っている。なお同じ著者，同じ出版社の児童伝記シリーズ全50巻の第2巻「野口英世」(1970)は第1報<sup>1)</sup>88)ですすでに紹介してある。

244) 金銭感覚ゼロも世界的野口英世。祖田浩一(編)：日本奇人・稀人辞典。259～264。東京堂出版，東京。1991 (図199)。執筆者名は13名記されているが，誰が野口の項を担当したかは不明である。浪費癖について書かれてはいるが，彼の一生を要領よくまとめている。坪内逍遙著「当世書生気質」の中の「野々口精作」を「野々口清作」と誤っている，よくある誤りである。

と誤っている，よくある誤りである。

245) 野口英世。東京歯科大学百周年記念誌編集委員会(編)：東京歯科大学百年史。597～615。東京歯科大学，千葉。1991。“第3部 人物小伝”の中に高山紀斎，血脇守之助，奥村鶴吉，花澤 鼎，野口英世の5名の伝記がある。野口英世の項には，1. 出自，2. 血脇守之助との邂逅，3. 済生学舎へ，4. フレクスナーとの邂逅，5. 留学の夢，6. ペンシルバニア大学医学部，7. ロックフェラー研究所，8. 世界の野口—梅毒スピロヘータ，9. 一時帰国—血脇との再会，10. 黄熱病との闘い，11. 血脇との別離，12. アクラへ，13. 狩人の死。の項目があり，多数の写真と共に彼の生涯が記されている。坪内逍遙の「当世書生気質」の主人公が“野々村精作”となっているのに気が付いたが，“野々村”となっ

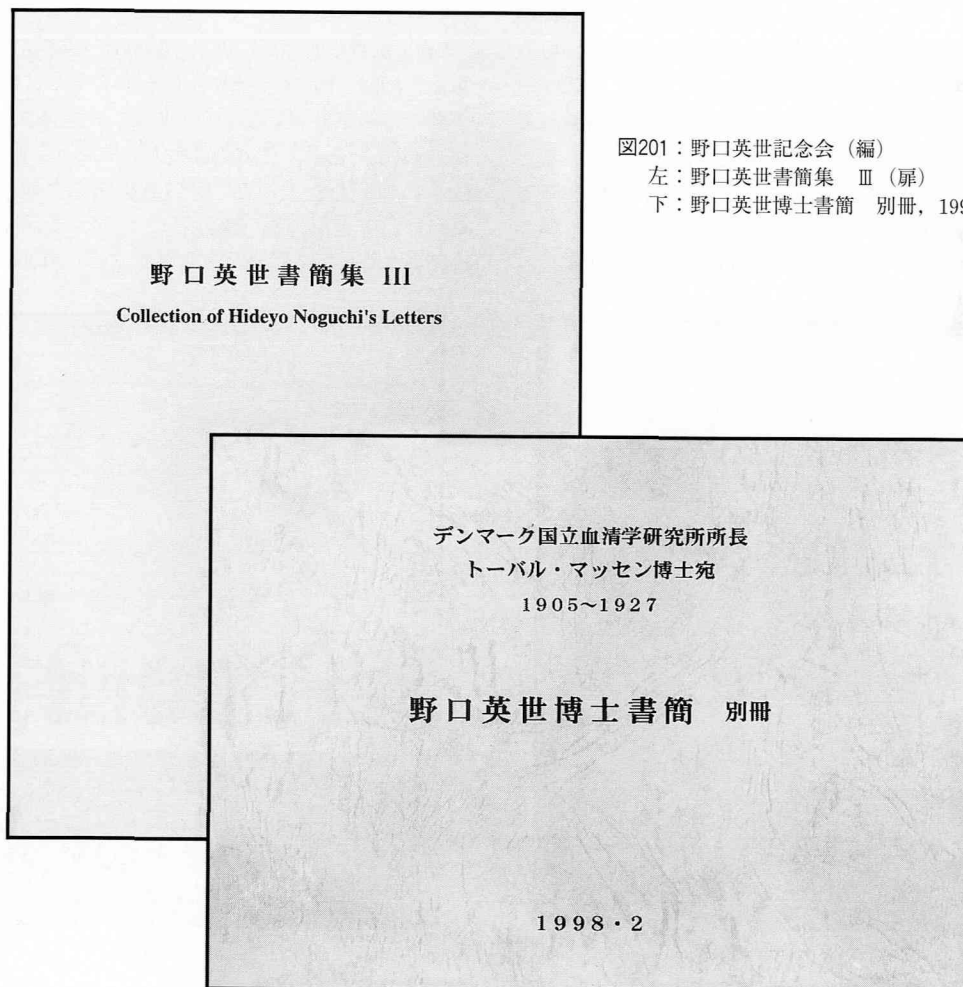


図201：野口英世記念会(編)

左：野口英世書簡集 III (扉)

下：野口英世博士書簡 別冊，1998



ている伝記は、われわれの知る限り、本書だけである。

246) 榎原悠紀田郎：歯記列伝。270頁。クインテッセンス出版、東京。1995。野口英世の項はないが、血脇守之助（103頁）、緒方六治（118頁）、石塚三郎（135～139頁）奥村鶴吉（163頁）、荒木紀雄（221頁）の項に出ており、野口の写真も載っている。

247) 永井明：「野口英世伝」はなぜ読まれ続けてきたか。本の話、3巻2号（通巻20号）14～17頁。1997（図200）。「本の話」編集部が作成した児童向け伝記の出版資料によると、非常に多く伝記に登場する人物として、ナイチンゲール、エジソン、キューリー夫人、ヘレン・ケラー、野口英世の5人が挙げられている。たしかに戦前・戦後を通して、しかも子供だけでなく大人にも人気を持続しているのは日本人では野口英世が群を抜いている。本報では、その理由について、赤ん坊のときの火傷、左手指の癒着とその手術、貧乏、刻苦勉強、医学者、無学歴、アメリカでの活躍、黄熱病によるアフリカでの客死などを挙げている。

248) 野口英世記念会（編）：野口英世書簡集Ⅲ、野口英世記念会、東京。1998（図201）。第3報（1994）<sup>3)</sup>で野口英世書簡集Ⅰ、Ⅱを記載した

が、本書はその続編である。すなわち本書は、野口英世が1903年10月から翌年9月までの1年間、デンマークのコペンハーゲンにある国立血清研究所に留学した際に指導を受けたトーバル・マンセン（Thowald Mandsen）博士に宛てた手紙を、1905年から始まり、1927年にアフリカへ向けての船中から発信されたものまでの28通が、この度すべて野口英世博士記念会に寄贈されたので、野口の生誕120年を記念して発刊されたものである。本書には関連ある写真11枚と共に28通の全文とその日本語訳が示されている。また別冊として野口の手書の手紙28通が縮小版ながらすべてオフセットで再現されている。ただし、No.4のところにクリスマスカードが挿入されたため、手紙の番号が1つずつくり下がり、最後はNo.29になっているのに注意する必要がある。これらは野口の研究生活を知る上で貴重な資料である。

249) 浜野卓也：野口英世。158頁。ポプラ社、東京。1998（図202）。“おもしろくてやくにたつ子どもの伝記1”である。本書は、子供向の伝記が119頁まであり、その後に大人の伝記（7冊）、医学につくした人びと、野口英世記念会館（東京）野口英世記念館（福島県）、年譜、遺品などが紹介されている。なお、このシリーズの②はマ



図202：浜野卓也：野口英世（カバーと帯）。ポプラ社、1998

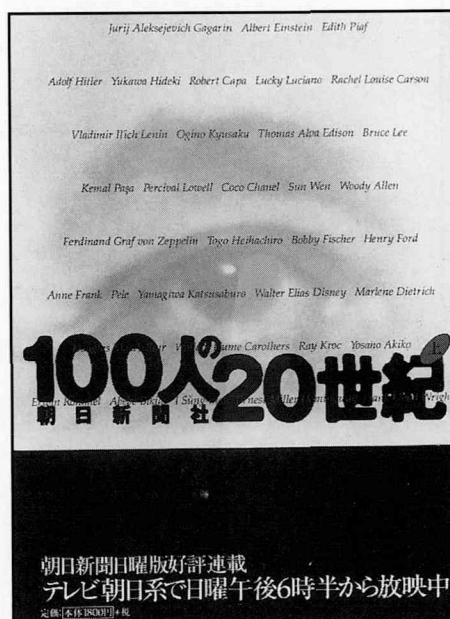


図203：朝日新聞社：200人の20世紀 上（カバーと帯）、1999

ザー・テレサ, ③豊臣秀吉, ④ライト兄弟, ⑤ベートーベンとなっている。

250) 野口英世記念会・野口英世記念館: 野口英世, 遠く離れた故郷と結ばれた絆. Sunrise Club, 通巻578号, 30~33頁, 1998. 英世から小林先生に贈られた1枚のカラー写真(キャビネ判くらいのポジカラーで, 野口英世の唯一のカラー写真である), 英世が書く10分間の手紙は私に数日の喜びを与える, 英世の人生の転機 清作から英世へ改名のこと, 英世アフリカで殉職 思い出を永遠に, の4章から成り, 多くの写真が挿入されている。

251) 村松崇夫: 野口英世. 100人の20世紀・上. 397~403頁. 朝日新聞社, 東京. 1999 (図203). 朝日新聞日曜版に連載された「100人の20世紀」の45番目に野口英世が登場したのは1998年11月8日であった. 連載前半の50人分を本書に集録したのである. 本文はすべて再録してあるが写真は2枚だけで, 他の4枚は省略されている。

252) 二宮陸雄: 野口英世を犠牲にした黄熱. 医学史探訪 医学を変えた100人, 206~207頁. 日経BP社, 東京. 1999 (図204). 本書に日本人

で載っているのは, 野口以外には高橋景保, 田原淳の2名だけである。

253) 小暮葉満子他(編): 今ふたたび 野口英世



図205: 小暮葉満子他(編): 今ふたたび 野口英世 (カバー). 愛文書林, 2000



図204: 二宮陸雄: 医学史探訪 医学を変えた100人 (カバー). 日経BP社, 1999



図206: 山崎光夫: サムライの国 (カバーと帯). 文藝春秋, 2000 矢印: 野口英世

世、434頁、愛文書林、東京、2000（図205）。本報の「はじめに」に記した本である。第2報（1989）<sup>2)</sup>に紹介した「野口英世博士ゆかりの細菌検査室保存をすすめる会（事務局：横浜市南区永田台27-18 小暮葉満子方）」が発行した会報“ながはま”全23号に掲載された野口英世に関す

る多数の論文や報文の中から主なものを選んで集録したものである。新しい事実が盛り込まれていてきわめて重要な文献となっている。

254) 山崎光夫：改名，サムライの国。179～234頁。文藝春秋、東京、2000（図206）。1998年「オール讀物」6月号に“改名－わが名は野口英世”と

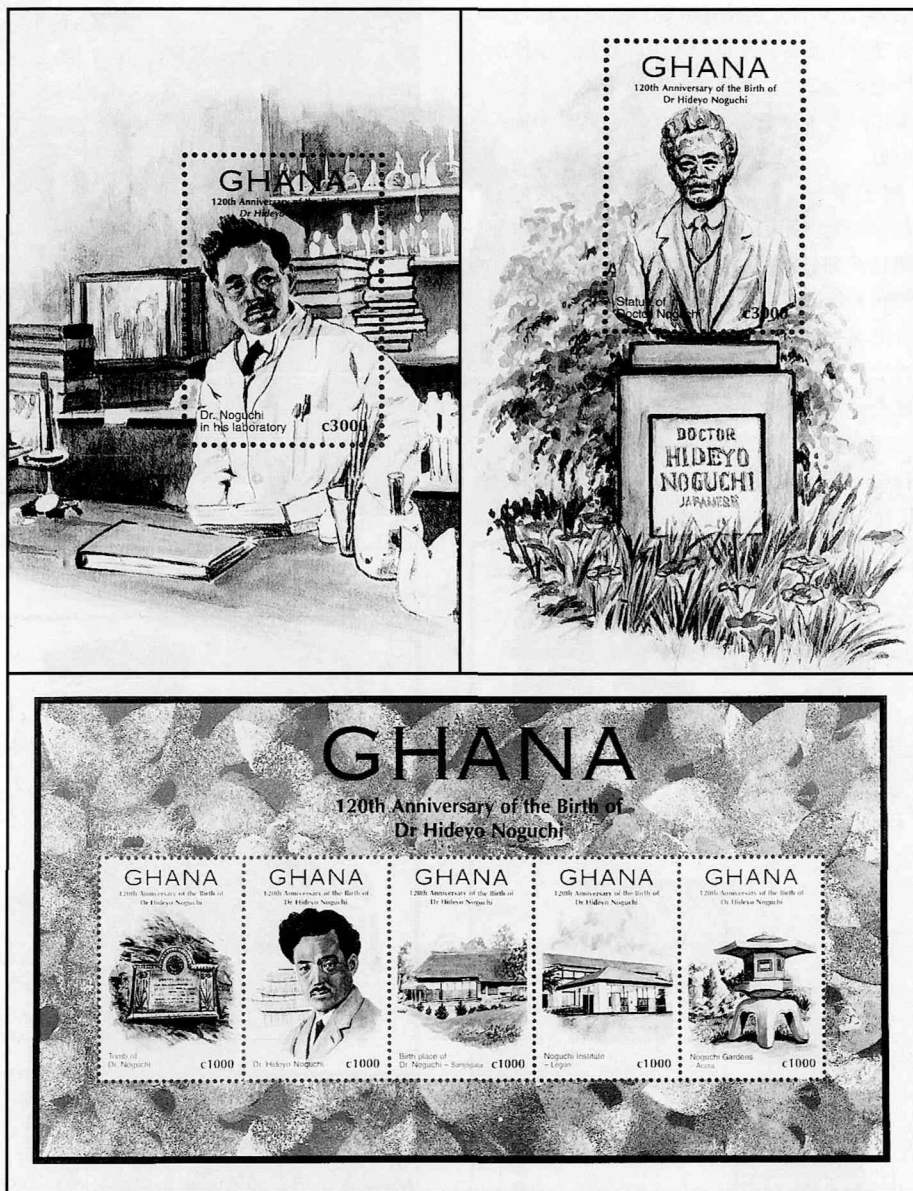


図207：野口英世生誕120年記念切手。ガーナ，1997

上左：研究室にて 上右：胸像

下左から：ニューヨーク・ウッドローンの墓地，肖像，三城潟の生家，レーゴンの野口研究所，アクラの野口庭園



して発表したものを、森鷗外、夏目漱石、北里柴三郎、ダグラス・マッカーサーの小伝と共に単行書に集録したものである。本書では単に“改名”となっているので、目次からは野口英世は引き出せない。改名するに至った経緯ばかりでなく、血脇守之助との師弟関係が詳細に述べられている。なお本書のカバーに、乃木希典の絵が描かれているのは、“マッカーサーに武士道を教えた男”だからである。

255) 産経新聞取材班：科学に一生を捧げ、そして死す 野口英世，黄熱病に倒れる。20世紀かく語りき。88～93頁。産経新聞ニュースサービス，東京。2000。産経新聞に2000年6月28日から8月4日までの土曜日を除く毎日，朝刊に連載された32回分と，これに16回分を追加して集録したものである。書名の如く，20世紀に語られた“名言”を柱にして年代順に，政治，社会，経済，文化，戦争，事件などが記されている。野口の項には，ニューヨーク郊外ウッドローン墓地にある野口英世の墓石の銅板に英語で刻まれている文章の和訳“科学に一生を捧げ，人類の為に生き，そして死す”の言葉と彼の小伝が記述されている。なお本書のカバーの折り返しと本文中に，本報図194（118頁）に示した写真と同じ場所で撮影した別の写真が掲載されている。

#### 野口英世の切手

第4報<sup>4)</sup>の末尾に1997年5月にアフリカのガーナ（Ghana）から野口英世生誕120年の記念切手が発行されたことを付記したが，その写真を示すことができなかった。そこで，ここにそれを記録する次第である（図207）。さらに1999年9月22日に発行になった「20世紀デザイン切手」シリーズ第2集の中に野口英世の肖像切手があるので，それを紹介する（図208）。このポーズは多くの伝記の表紙になったもので，第1報<sup>1)</sup>の図26，図70右，図74，第3報<sup>3)</sup>の図154，図155にも出ている。それらの中で，図70，図154，図155は全く同じポーズである。



図208：野口英世と顕微鏡

#### あとがき

本報において野口英世関連の伝記類19種21冊を記載した。これを第4報<sup>4)</sup>までの235種271冊を合計すると254種274冊になる。また付録的に記載した野口英世の切手は，今回の日本の切手を含めて，日本（2種，1変種），南米エクアドル（2種），南米ガイアナ（1種），アフリカ・ガーナ（7種）の計4か国，12種，1変種となる。

最後にご協力戴いた歯科医師 水川秀海博士，神奈川歯科大学 中村澄夫助教授，野口英世記念会 関山英夫氏に感謝する。

#### 参考文献

- 1) 矢ヶ崎 康，加藤倉三，枝 重夫（1987）松本歯科大学所蔵の野口英世の伝記。松本歯学 **13**：1-34。
- 2) 矢ヶ崎 康，加藤倉三，枝 重夫（1989）松本歯科大学所蔵の野口英世の伝記（補遺）。松本歯学 **15**：217-31。
- 3) 矢ヶ崎 康，加藤倉三，枝 重夫（1994）松本歯科大学所蔵の野口英世の伝記（第3報）。松本歯学 **20**：80-99。
- 4) 矢ヶ崎 康，枝 重夫（1997）松本歯科大学所蔵の野口英世の伝記（第4報）。松本歯学 **23**：194-210。